



留萌港のケアラシ

放射冷却の日に現れる
特異な気象現象、蒸気霧

厳寒期の風物詩として知られるケアラシは、冷え込みの激しい日に海面に発生する湯気のような現象を指します。漢字では「気嵐」と書きますが、気象用語では「蒸気霧(じょうきぎり)」と言われ、ケアラシは留萌地方で使われ始めた北海道の方言とされています。

留萌沿岸はこのケアラシが見られることで知られており、黄金岬(留萌川)を中心に北は塩見、三泊、南は瀬越、浜中、礼受の各海岸で見ることができます。発生する条件は気温がマイナス15度前後に冷え込んだ快晴の日で、海水温と気温の温度差が15℃以上あること。風向・風速は東南東の風系が多く、発生前後の風速は3~5m/s。放射冷却により冷え込みが強まると、内陸や山地の空気が冷やされ、その冷やされた空気が暖かい海面上に流れ込むことで、水蒸気が急激に蒸発し、霧(ケアラシ)が発生するわけです。発生する時間は午前5時頃から午前10時頃までが多く、発生してもその後の気温の上昇などの要因により消滅してしまいます。発生場所は海岸より1km~数km程度で、高さは2~3mの小さなものから10m位の大きなものまであります。

留萌では沿岸漁業が盛んな頃、小型船は沿岸の航行や港の出入りの際、ケアラシによる視界不良に悩まされたと言われていました。現在は道路拡張工事や護岸工事が進められ、沿岸各所にあった小河川が少なくなったため、昔ほど大規模なケアラシは見られなくなり、発生回数も減少していますが、自然が描き出す幻想的な光景を写真に収めようと、この地を訪れる写真家も少なくありません。

見どころ

日本の夕陽100選に選定されている黄金岬は、夕陽はもちろん、ケアラシの撮影スポットとしても人気があります。まるで海全体が温泉になったように霧が立ち込める光景は幻想的かつ神秘的。運のいい人だけが見られる自然現象です。

ポイント

ケアラシは冷え込みの激しい日に海面に発生する湯気のような現象のことで、留萌地方で使われる北海道の方言です。幻想的で美しいこの自然現象目当てに訪れる写真家もいます。

五感で感じる！ 風土資産の魅力

聴く 触る 味わう 嗅ぐ 知る

触る

ケアラシ同様、11月から2月の厳寒期に見られる「波の花」は海中に浮遊する植物性プランクトンの粘液が荒波にもまれ、石鹸状の白い泡となって生成するもの。強風で舞い上がる波の花はふわふわと白く、幻想的ですが、服に付くとしみになるので注意してください。

■ 基本情報 (R1.5)

—